

## 年の始めに

### —勉強方法を考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

#### 1. はじめに

Q：なぜ「年の始めに」「勉強の方法を考える」のですか。

A：（林 明夫。以下略）「年の始めに」なると、「今年こそは勉強しよう」と決意はするが、「勉強の方法」がよく身につけていないために「志(こころざし)」が「持続」しない人が多い。折角、年の始めに勉強をしようと決意なさったのに、方法が身につけていないため「志」が持続しないのでは、余りにも、もったいないと思うので、せんえつながら、私の考えをのべさせていただきます。大切なことは、ものごとを「理解する」ことと、それを「定着させる」こと、実際に「役立てる」ことは、異なることを知ることです。

#### 2. 勉強の方法を考える。

Q：ものごとを「理解する」とは何ですか。

A：学校等に行って先生について勉強なさる場合には、先生からものごとを教わりますね。先生は御自分の教案(レッスン・プラン)にもとづき、教科書や副教材、御自分のノートなどをお使いになりながら、これはこうだよ、とわかりやすく、親切に教えて下さると思います。教室で先生の教えに従い授業内容を理解することが、ここで言う「ものごとを理解する」ことと言えます。

又、教室で直接先生から教わらなくても、TVやラジオ、テープやビデオ、インターネットや「本」などで勉強する場合には、そこでのべられたり示されたりしていることを「画像」や「音声」、「感覚」や「文字」などによって「理解する」ことも、ここでいう「理解すること」に入ります。

いろいろな会合で人から話をお聴きして、あっ、そうかと思うのも「ものごとを理解すること」にあたります。

Q：「ものごとを理解する」段階で大事なことは何ですか。

A：やはり、先生の言うことを「素直」な心で「謙虚」に、「礼節」をもっておききするということでしょう。おごり高ぶったり、先生やクラスメイトに迷惑になる態度は避けるべきです。一所懸命に、一つの所に命を懸けるような真剣さで、生徒は授業に臨むべきです。

本に書いてある内容を「理解」しようとするときも同じです。今の日本では、出版会社や本屋さんのお陰で、簡単に本が手に入るため、本を大切にしない人がいます。1冊の本を手にしたら、大切な先生をおむかえして教えを受けると考えて、身を正して机に向かい、書いてある内容を「理解する」こと、にまずは全身全霊を傾けるべきです。一字一句ないがしろにしないで、教室で授業を受けるようなつもりで、内容の「理解」に努めること。

Q：「定着させること」とは何ですか。

A：授業中に先生からものごとを習い理解すること、ある1冊の本で勉強して、あるものごとを理解することがまず大切です。では、「理解すること」ができたらどうするか。「一度理解したこと」を「定着させること」が大事です。簡単に言えば「〇〇は△△だ」ということが、頭の中で理解できたら、それを覚えること、何も見ずに言えるまでになること、文字で書けるまでになることが大事です。理科や数学なら、原理や原則、公式などの意味が「理解」できたら、それを使って簡単な計算がスラスラできるようになること。例えば、一ケタのかけ算の意味(「かける」とはどのようなことか)が「理解」できたら、かげざん九九を「空」で覚えることが大事です。「明治維新」についての意味が「理解」できたら、「明治維新」という「漢字」を書く練習をして、書けるまでにすることが大事です。

このように、先生の講義や教科書・参考書で、ある一つの内容を「理解」したら、先生のおっしゃったことやテキストに書いてあることの中で、大切なことが書けることに加えて、簡単な計算ができるまでにすること。これが、「定着させること」の意味です。

「今の話・この本は面白かった、目からうろこが落ちた」といっても、よくわかった、つまり「理解した」のは一瞬間です。講演会ならば、どんな内容のお話であったのかを、メモや配布物などを開いてもう一度思い出し、頭の中でまとめ、もう1～2度反芻して初めて「定着」します。本なら、大事なところをマークして、読後少し時間をおいて、もう一度マークの箇所だけでも読み返して、はじめて一度「理解」したことが「定着」することになります。

小学校や中学校で、先生から「復習をキチンとするように」と指導をお受けになられた方も多いと思います。「復習」は、一度授業で「理解」したことを、「定着」させるために効果があるからです。

ノートや教科書を先生に教わったところまで、意識的に一語残らず覚え込んでしまう、文字で書けるまでにしてしまうことが、「定着」の極地です。得意な分野や、得意にしたい分野は、ここまでの「定着」を目指してください。

Q：実際に「役立てる」こととは何ですか。

A：ふつうの学生であれば、中間試験や期末試験、学年末試験などの「定期試験」でよい点数、つまり満点をとる「得点力を身につけること」です。

受験生であれば、合格を希望する学校(私は各自が行きたい学校を一人ひとりの「一流校」と呼んでいます…)や各種の試験に合格するだけの「得点力を身につけること」です。

仕事の上での勉強をしている人であれば、ついた先生や読んだ本で一定の内容を「理解」し、自分なりに「定着」させたら、自分に与えられた仕事に「応用」できること。つまり、仕事の上で「結果が出せる職業人(プロ)になれることが、実際に「役立てる」ことの意味です。

「得点力」を身につけることや仕事上で「結果が出せる」能力を身につけるためには、「理解」したことを「定着」することの他に、それなりの手順をふまねばなりません。

試験での「得点力」をつけるのなら、どのような問題が過去にその試験で出されていたのかを知り、「理解」し「定着」させた内容が、どのような形で「出題」されるのかを知らねばなりません。知っただけでは点は取れず、実際に過去に出された問題を解き、もし得点できない分野があれば、得点できるまでにする必要があります。自分の選んだテキストでは不足なら、別のテキストを入手

し、不足知識を「理解」し、「定着」させること、得点できるまでに「得点力」を高めることも大事です。

仕事の上で結果を出したいなら、先生や書物から得た知識を「理解」し、自分なりに頭の中に一応は「定着」させた後、もう一度冷静に自分の仕事を「分析」なさることをおすすめします。そのために次の三つの作業をして下さい。①何が最大の問題なのか。「最も気がかりなことは何か」つまり問題点を発見することが第1。②その最大の原因は何か。「なぜ、なぜ、なぜ」と頭のシンがいたくなるまで、その本当の原因を考え抜くことが第2。③問題点とその原因が判ったら、とりあえずどうするかという「緊急(応急)処置」の手順(プロセス)を考えること。同時に、2年位かけてどう取り組むかという「制度(システム改革)の手順(プロセス)を考えることが第3。

①問題の発見、②原因の推定、③対策(緊急処置システム改革)という手法で、現在の仕事を冷静に「分析」した上で、今までに、「理解」し「定着」した勉強内容をどのように生かせるか、「役立てることができるか」をお考えになるとよいと思います。

Q：仕事をお持ちの方のために一冊本を紹介してください。

A：フィリップ・コトラー・ゲイリー・アームストロング著「コトラーのマーケティング入門(第四版)」(月谷真紀訳)1999年11月30日トッパン刊・7600円をおすすめします。

著者のコトラーはマーケティングでは世界 No.1 級の先生で、この本が最もわかりやすいと確信します。大不況下で、1 円の無駄な支出、1 分も無駄な時間が使えない会社が大部分だと思われま。マーケティングの正確な理解と定着、実務への応用が急務なのに、我が社では誰も最近マーケティングの勉強をしていない、では、会社が立ち行かなくなります。著者の「マーケティング・マネジメント」よりは、はるかに読みやすく、一人でも十分理解可能なので、是非お読み下さい。会社の経営にお役立て下さい。

### 3. おわりに 政策立案者の皆様へ

Q：この「おわりに」は毎回「政策提言」が書いてありますが、何のためですか。

A：選挙によって選ばれた方々(首長、議員各位)や、公務員各位、この街をどうにかしようと皆様に市民のために是非議論して頂きたいがために書かせて頂いています。

Q：国会移転先の候補地として那須が入りましたね。

A：那須に国会の移転が決定された場合には、人口 60 万人の特別市ができます(クライスター方式ですが)。そのとき、栃木県をどうすべきか。私は、先月号にものべたように、栃木県は人口 80 万の都市を 3 つつくることを目指すべきと思います。国会のある特別市「NASU 市」、現宇都宮市を中心とする政令指定都市の「宇都宮市」、県南 4 市 10 町を合併した政令指定都市の「とちぎ市」。各街の伝統や文化を尊重しながら、役割分担を明確にしつつ広域連帯を徹底的におしすすめることが、財政難の中で一人ひとりの県民の生活を大切にすることに直結すると思います。

Q：企業についてどう考えますか。

A：第二次産業に属する事業所は一か所残らず ISO9000 シリーズや ISO14000 シリーズを取得して頂くことが、レベルの高い街の評価を一気に高める。市町村としては、ISO の取得に必要な経費(約 500

万円)の1割か2割(50万か100万円)を「補助金」の形で支給すべき。年間に1億円の予算で100社から200社、10年なら、1000社から2000社がISOを取得できる。市町村長や議員の皆様は、各社を訪問して、ISO取得事業所の多さが、優良企業誘致の第一条件であることを説得すべき。(有料企業はどこまでもISOの基準にのっとり生産がなされているので、もし、関連の仕事がしたければISO取得は不可欠。ISOなしではどんな小さな事業所もなり立たなくなる時代が間近い。)

Q： 民営化について、一言どうぞ。

A： 経営管理者が「天下りの役人」で職員のほとんどが「旧公務員」の「独立行政法人」や「第三セクター」、「PFI」は、いくら税金からの「補助金」をつぎ込んでも「赤字」がふくらむだけなので、はじめから「民営化」を地方でも議論すべき。政策立案者は本格的な「民営化」の勉強を。今回はここまで。

(12月12日記)